

開催にあたって

菅原 寛孝 薬山高等研究センター センター長

(これは英語で行なわれたスピーチを要約したものです)

本日は「大学共同利用機関の成立に関する史料アーカイブズ」研究会のために来学いただき、またディスカッションにも参加いただきありがとうございます。この機会に、あいさつに代えて、薬山高等研究センターの活動についてご紹介したいと思います。

2004年4月に従来の教育研究交流センターと教育研究情報資料センターが統合されて薬山高等研究センターが新設されてから1年間、ゼロからのスタートでしたので、われわれは何をすべきか、さまざまに模索してきました。その結果、われわれは、薬山高等研究センターとして何をすべきかを考えるに際して、さまざまな分野における人間的な側面を重視しました。たとえば、生命科学の領域においては、人間の進化や人間の精神的な活動に関わる遺伝学を主要なテーマとしています。それは同時に学際的な研究を推進する試みでもあります。具体的には、次の3つのカテゴリーのプロジェクトを実施しています。

プロジェクト1：人間生命科学 (human bioscience)

生物学的、特に進化学的・遺伝学的視点に立って生命体を理解することを目標とするプロジェクトです。

プロジェクト2：物理を基盤とする生命科学 (Biology based on physics)

学際的な領域としてはポピュラーな領域ですが、われわれは特別なアプローチを通じて、センターとしての存在感のある新分野を開拓することを目指しています。

プロジェクト3：人間と科学 (Human and science)

人間と科学という観点から、次の3つをサブテーマとして研究しています。

- ①科学と倫理 Science and ethics
- ②戦争と平和 War and peace
- ③研究機関のアーカイブズ Archive for the institutes

もちろんわれわれセンターの役割は非常に限定されたものでしかありません。しかしアーカイブズについては、特にデジタル・アーカイブズとオーラルヒストリーの2つを重視しています。

総研大の役割は、個別の研究所・研究機関が上記の2つの手法を通じて技術的にアーカイブズ整備することを支援すると同時に、このような研究会の開催やデジタル・アーカイブズのサーバー構築を通じて、アーカイブズに関わる人々が相互に交流するためのプラットフォームを提供することだと思います。

<コメント> (平田)

葉山高等研究センターは、手広く研究を進めていますが、共同利用研の歴史アーカイブズのプロジェクトも、その研究の一環で、私が責任者として関わっています。今回のワークショップは、史料入門、アーカイブズ、共同利用研の歴史のパートに大別されます。

史料入門では、文献資料（一次資料）だけではなく、聞き取り調査をはじめとするオーラルヒストリーについても学びます。また社会学、文化人類学で用いられる参与観察の手法なども有機的に連携させながら、共同利用研の歴史を浮き彫りにしたいと思います。また今後についても心配な点もありますので、

将来展望も射程に入れた現代歴史研究をめざしていくつもりです。

なおアーカイブズについては、史料を集めるという漠然としたイメージは共有されていると思いますが、どのようにして収集、整理、保存するかなどの方法論についてはまだまだ知られていません。そこで、そうした基礎的知識についても、この際、勉強したいと思います。こうした観点から、現実のアーカイブズの紹介をしていただきます。

その他、各関係者の方々から共同利用研の歴史についても紹介していただきますが、それはこれからの研究対象ですので、ここで結論が出せるものではありません。ただ、個別の共同利用研の設立の歴史、経緯だけでなく全体の歴史についてはほとんど知られていませんので、今後の方向性を探る上でも、個別の共同利用研の歴史、現状などを探り、知識を共有化していきたいと思います。